

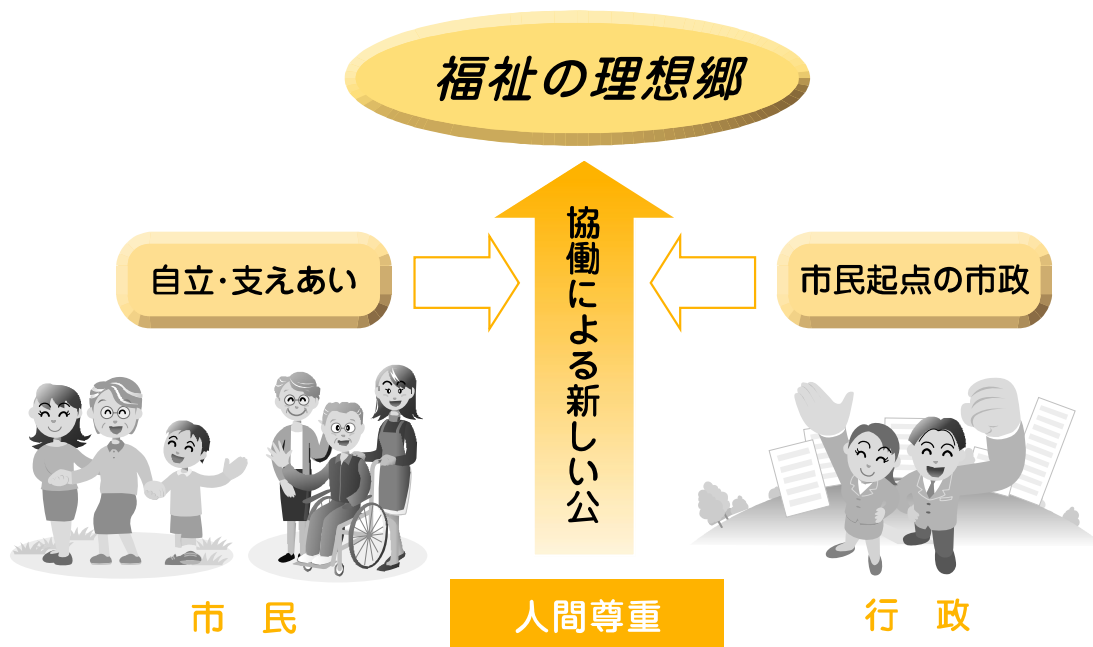
參考資料



第1章

まちづくりの基本理念

「人間尊重」をまちづくりの原点に据え、市民の一人ひとりの自立を基本に、生涯を通して自らの夢に挑戦しながら生きがいを持って暮らすとともに、相互に多様な価値観や個性を尊重しあい、支えあうことで信頼と安心に満ちた地域社会の創造を目指します。また、行政は「市民の幸せ」をすべての基準とする市民起点の市政を進め、市民と行政がお互いの役割と責任を自覚しながら「新しい公」を確立し、力を合せて心豊かで質の高い地域社会を築きあげる「人間尊重を原点に、自立と支えあいで作る福祉の理想郷」をまちづくりの基本理念をとします。



※福祉……「福祉の理想郷」の福祉とは広義の福祉、すなわち幸せを意味しています。時代の大きな転換点にあり、市民の幸せの基準が「物の豊かさから心の豊かさ」へ、また「よりよく生きる」ことへと大きく変化している今、改めて「市民の幸せの追求」をまちづくりの理念に掲げ、市民の皆さんと力をあわせて理想郷（理想のふるさと）の実現を目指します。

※新しい公……市民や市民団体、企業など多様な主体が社会の担い手として「公」の活動に積極的に参加し、行政と市民等がお互いの役割と責任を自覚しながら、パートナーシップのもと力を合せてまちづくりに取り組む新しい市民社会を指します。



第2章

将来都市像と まちづくりの基本的な方向

1. 将来都市像

名張市は、大規模な住宅開発により、清潔で余裕ある良好な住環境が整備され、市外から多くの市民を迎え続けながら発展してきたまちです。また、市民アンケート調査でも、名張で住み続けたいとの回答が約87%にも達する、市民の定住意向が非常に高い生活都市(暮らしのまち)です。

この最大の地域個性である『暮らしのまち』を視点に、恵まれた水と緑の自然環境や、先人が築いてきた豊かな歴史・文化、蓄積してきたさまざまな都市機能などの財産を大切に生かし、安心、安全で快適な生活環境や名張ならではの質の高い暮らしを創造するとともに、名張の最大の財産である市民一人ひとりが、自立と参加を基本に、地域社会のなかで心豊かに交流し、支えあいながら、生きがいを持って暮らし続けていくことで、誰もが真の幸せを実感できるまちの創造を目指し、将来都市像を次のように定めます。

豊かな自然と文化に包まれ、
誰もがいきいきと輝いて、
幸せに暮らすまち

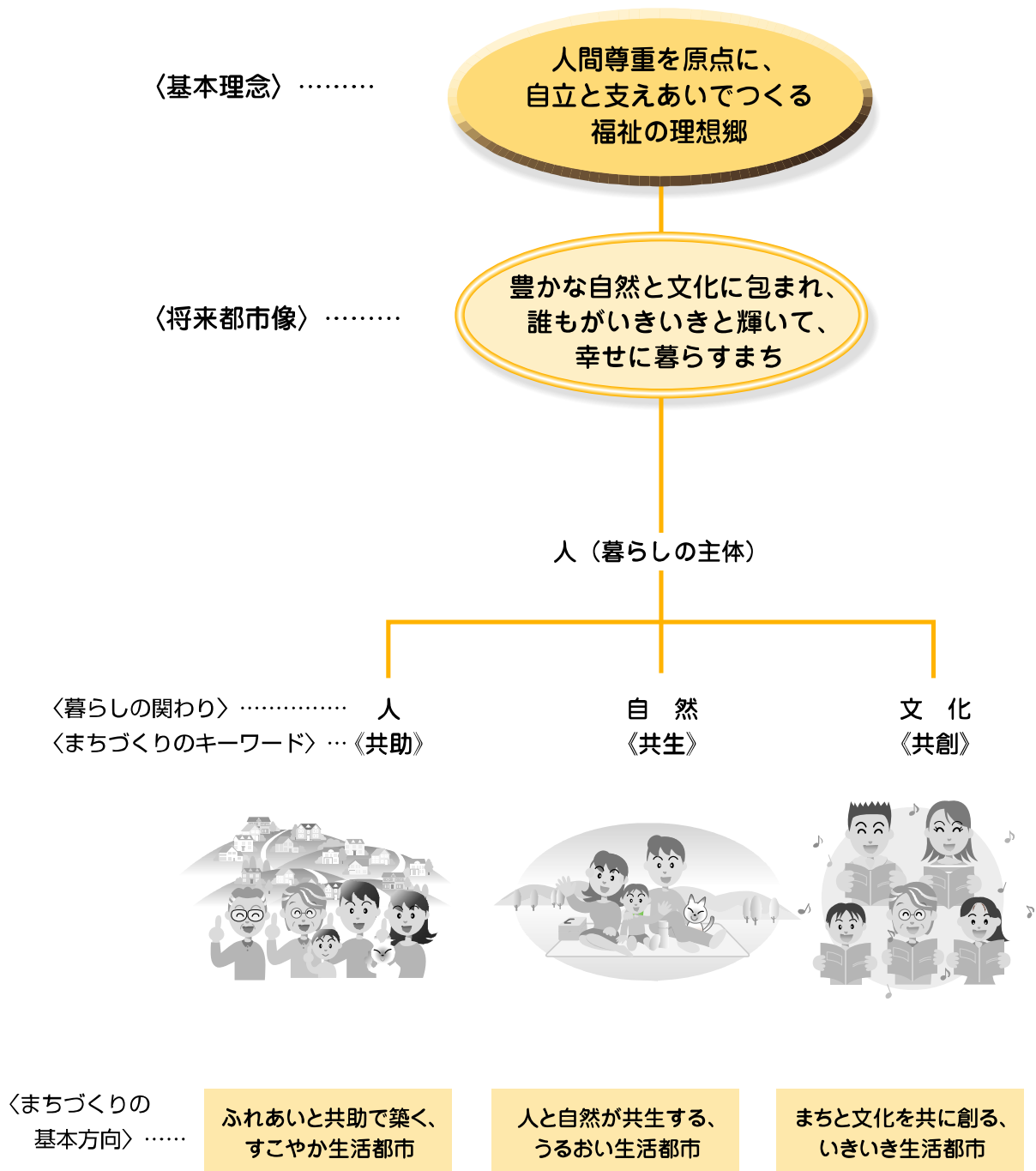
基本 構想

● 第1章 まちづくりの基本理念

● 第2章 将来都市像とまちづくりの基本的な方向

2. まちづくりの基本方向

名張市の地域資源を生かしながら将来都市像を実現していくため、「人」と「自然」と「文化」を基調として、次の3つのまちづくりの基本方向（基本政策）を定めます。また、それぞれ、暮らしの主体である人との豊かな関わりを再構築していくという視点から、《共助》、《共生》、《共創》の3つの「共」をキーワードに据えてまちづくりに取り組みます。



(1) ふれあいと共助で築く、すこやか生活都市

誰もが人間として尊重され、自由に社会参加しながら、いきいきと暮らし続けることができるよう、共に助け合い、支えあふれあい豊かな地域社会づくりを進めます。

また、高齢化の急激な進行が予想されるなか、誰もが生涯を健康で安心して暮らすことができるよう、自立を基本に、健康、医療、福祉分野を結びつけ、多様な主体が協力して、総合的な取組が行える仕組みや体制を整え、ふれあいと共助で築く「すこやか生活都市」の創造を目指します。

(2) 人と自然が共生する、うるおい生活都市

恵まれた自然や、市街地周辺に広がる田園、名張川と多くの支流など名張の財産である豊かな水と緑の環境を守り育て、身近な自然とのふれあいのなかで地域の豊かさが実感できる、潤いのある市民生活を実現します。

また、地球温暖化や資源の枯渇など地球的規模の環境問題への認識を深め、資源やエネルギーを有効に活用する資源循環型のシステムづくりを進めるなど、人と自然が共生する「うるおい生活都市」の創造を目指します。

(3) まちと文化を共に創る、いきいき生活都市

人々の交流や地域の連携を図ることによって、人口急増期に蓄積してきたさまざまな都市機能の有効活用を進めるとともに、歴史や地勢など地域個性を生かしつつ、安全で快適に暮らせる生活環境と活力ある地域社会づくりを進めます。

また、ゆとりと彩りのある暮らしには、文化という要素が不可欠です。豊かな歴史・文化資産や名張の風土に培われてきた暮らしのなかの文化を保存、活用するとともに、まちで繰り広げられる人々の多様な交流のなかから新しい文化を創造し、発信するなど、まちと文化を共に創る「いきいき生活都市」の創造を目指します。





1. 目指すべき都市構造

暮らし広がる連携型都市構造の形成

名張市は、豊かな緑の山々に囲まれ、清らかな川の流れに沿って広がる田園と農村風景、小高い丘に計画的に整備された住宅地、さまざまな人々の交流と営みの歴史のなかで形成されてきた中心市街地など、美しい自然と調和したまちです。

こうした名張固有の地理的、自然的特性を基礎として、次の方針のもと「拠点」、「軸」及び「空間」づくりを進めることにより、分散型の都市構造から中心市街地を核とする連携型の都市構造への転換を進め、美しい自然、質の高い居住環境、多様な生活様式や生活文化、さまざまな都市機能などを生かして、「豊かな自然と文化に包まれた」魅力ある都市空間を創造します。

① 地域特性に応じた多様な拠点づくり

名張市の顔であり広域的な都市拠点として位置づけられる中心市街地の都市機能の向上をはじめとして、住宅市街地の質の高い住環境の形成、集落地域の生活環境の保全、向上などに取り組み、それぞれの地域個性が輝く、誇りの持てる多様な拠点づくりを進めます。

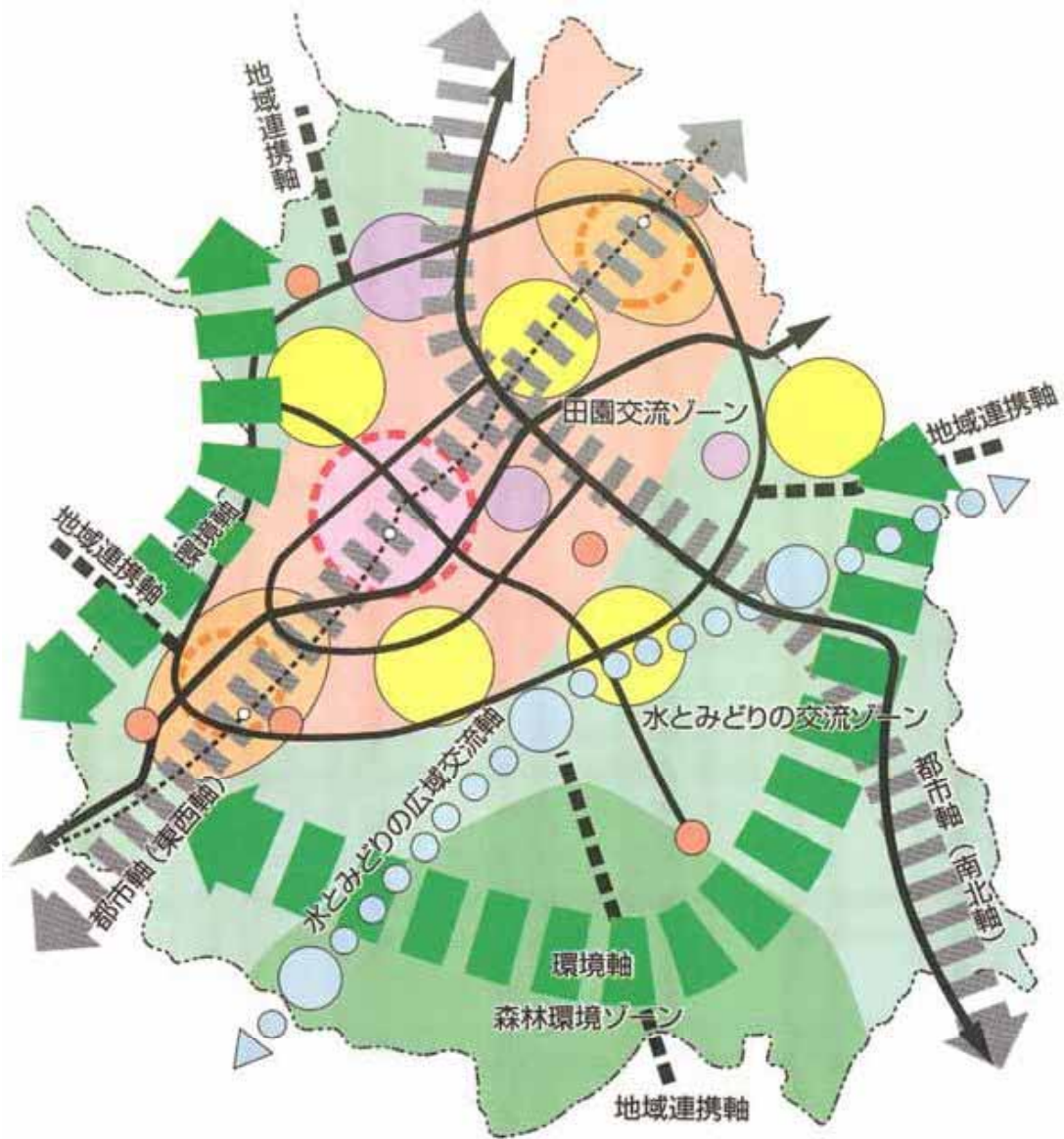
② 地域連携を促進する重層的なネットワーク(軸)づくり

中心市街地を核として、多様な拠点を結びつけ、地域間の機能分担と相互補完によって豊かな市民生活が可能となるように、市域内外の交流・連携を促進する道路・交通、情報通信などの重層的なネットワークを創造します。

③ 広がりのある魅力的な空間づくり

地域間の交流・連携の促進により、身近に豊かな自然とふれあうことのできるゆとりのある都市環境や都市的サービスを楽しむ集落地域の整備によって、広がりのある市民生活が可能となる質の高い魅力ある都市空間を創造します。

目指すべき都市構造図



| | | | | |
|------|--|---------------|--|-------------|
| 【凡例】 | | 生活文化拠点 | | 地域連携軸 |
| | | 集落居住拠点 | | 環境軸 |
| | | 都市拠点 | | 水とみどりの広域交流軸 |
| | | 産業拠点 | | 水とみどりの交流ゾーン |
| | | 観光・レクリエーション拠点 | | 森林環境ゾーン |
| | | 農業拠点 | | 田園交流ゾーン |
| | | 都市軸 (東西軸・南北軸) | | 農業ゾーン |
| | | 市域交流軸 | | |

2. 土地利用の方針

(1) 土地利用の基本方針

土地は、過去から現在、将来にわたる人々の営みを支える共通の基盤であり、私たちにとって限られた貴重な資源であるとともに、多様な生物との共有財産でもあります。こうした観点から、「自然との共生」、「公共の福祉」を基本に、歴史や文化、社会的な条件など地域特性に応じて、住民参加のもとに適正かつ計画的な土地利用を進めます。

① 自然と人が共生する計画的な土地利用

土地のもつ自然的な属性を土台として、「計画なければ開発なし」を基本原則に、自然と人との共生を基本とした計画的な秩序ある土地利用を進めます。

② まちと自然が調和する質の高い土地利用

ふるさとの風景や文化など地域資源を大切に、それぞれの地域特性に応じた質の高い土地利用を図り、美しい自然と調和する個性豊かで快適な土地利用を進めます。

③ 人と人、地域と地域の交流が広がるきめ細かな土地利用

土地の持つ公共的な性質を踏まえながら、地域住民が主体となって、各種団体や企業、行政などの相互理解と協働による、きめ細かな土地利用の計画やルールづくりに取り組み、人と人、地域と地域の活発な交流が広がる住民参加の土地利用を進めます。

(2) 土地利用の基本方向

将来の都市構造の実現に向けて、自然的な条件、土地利用の現況や特性、まちの形成過程や今後の動向などを見極めながら、市土の利用・整備・開発及び保全の観点から市域を三つのゾーンに区分し、それぞれのゾーンが持つ特性を生かしながら、計画的で質の高い土地利用を図ります。

名張市は、これらの土地利用ゾーンを基本に、特性に合ったさらにきめ細かな土地利用区分を定めた国土利用計画や土地利用マスタープラン、都市計画法などの適切な運用を図り、計画的な土地利用を進めます。

① 市街地ゾーン

市街地ゾーンは、主として都市的な土地利用を図ることが適当な地域とします。市街地ゾーンは、名張地区や計画的に整備された大規模な住宅地などが含まれ、名張市の顔となる魅力ある中心市街地の再生・整備や、住宅地の潤いのある住環境の保全・整備、また、幹線道路沿道などの秩序ある市街地整備などを進め、名張らしさを大切にしながら快適で質の高い都市空間を創造します。

② 緑の共生ゾーン

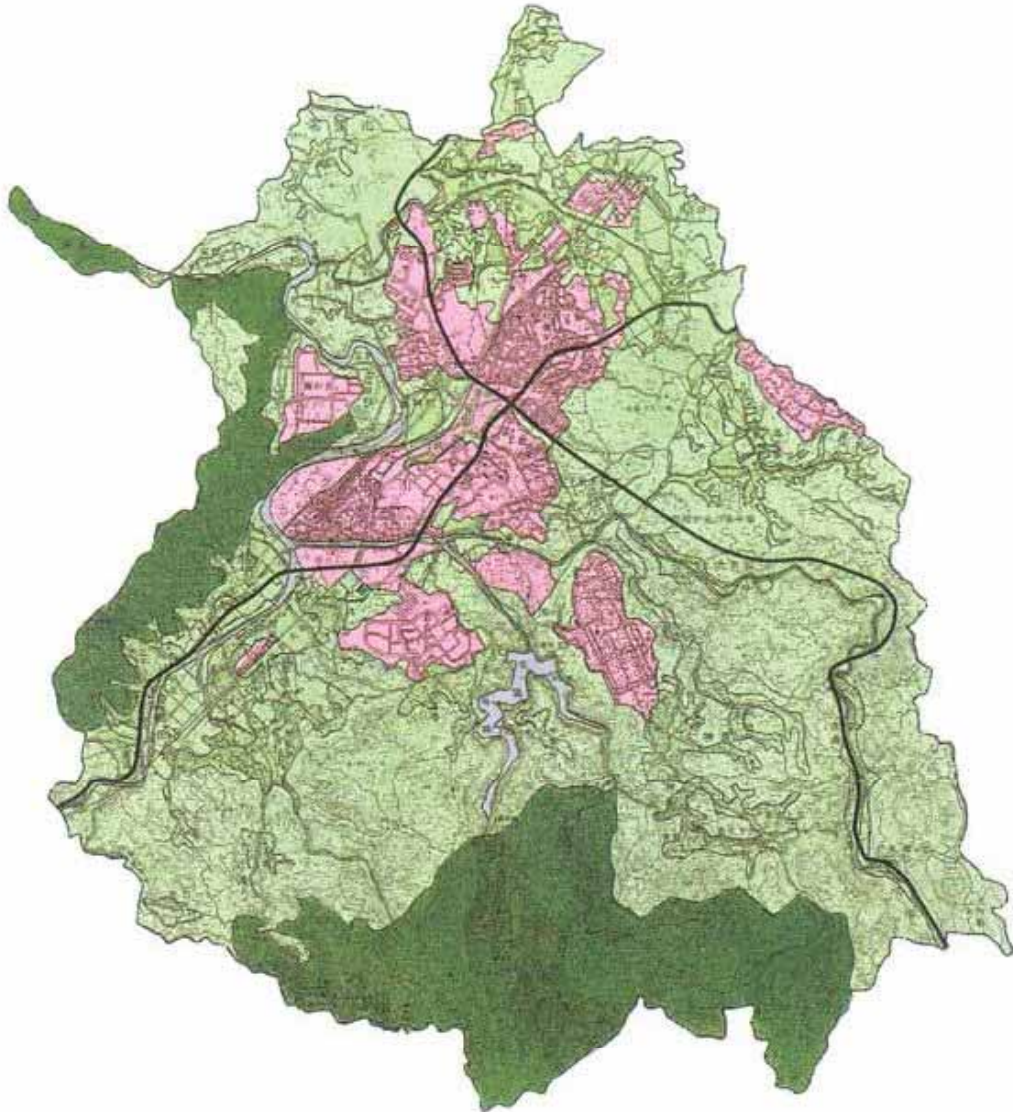
緑の共生ゾーンは、原則として市街化を抑制し、豊かな自然の中で、農林業の振興を図るとともに、集落地域の生活や人と自然とのふれあいの場として土地利用を図ることが適当な地域とします。

緑の共生ゾーンは、市街地周辺に広がる農山村の集落地域及び農産物の生産緑地、森林などが含まれ、地域文化やコミュニティ機能の向上に努めるとともに、優良農地の積極的な保全と緑豊かな森林等自然資源の保全・活用を図ることを基本に、多様な地域間交流を促進し、自然と人が豊かにふれあい、人間性の回復の場として、ゆとりと安らぎに満ちた空間を創造します。




③ 自然保全ゾーン

自然保全ゾーンは、良好な自然景観の保全や防災上の観点から、自然環境を保全し、育成することが適当な区域とします。自然的属性や環境上の観点から森林の適正な育成、管理を進め、自然環境を積極的に保全します。

土地利用構造図



【凡例】

- | | | |
|--|---|--|
|  市街地ゾーン |  緑の共生ゾーン |  自然保全ゾーン |
|--|---|--|



第4章

まちづくりの戦略

厳しい社会経済環境や国の構造改革、地方分権の進展などにより、今後、自治体間（地域間）の競争が激化していくことが予想されますが、名張市では住宅都市特有の急速な高齢化が進むと予想され、地域活力の低下が懸念されています。

こうしたなか、名張の最大の地域資源である人材（市民）の活動の場を広げていくことで、地域の活力維持を図るとともに、人と人との豊かな関係による共助の仕組みや、市民と行政が目的を共有しながら適切な役割分担のもと協働して地域課題の解決に取り組む「新しい公」の構築を基本としつつ、地域個性と資源を最大限に活用しながら、将来都市像である「豊かな自然と文化に包まれて、誰もが生き生きと輝いて、幸せに暮らすまち」を効果的に実現するために、独自の地域戦略を構築し、リーディングプランとして重点的な取組を進めます。

第1節 戦略の視点

(1) オンリーワンのまち

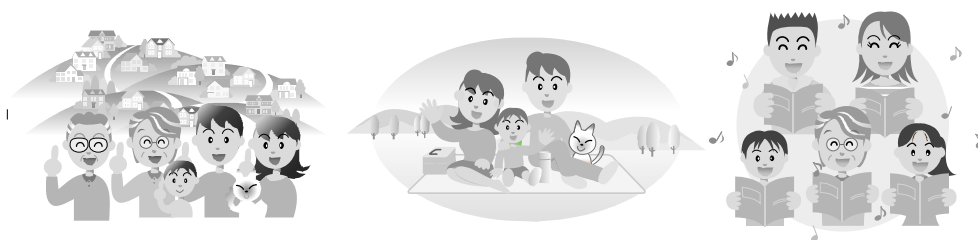
名張の最大の地域特性である「暮らしのまち（生活都市）」を磨きその質を高めていくことを基本に、さまざまな地域資源を最大限に活用しながら、市民の多様な活動の仕組みをつくり、その活動を広げていくことで地域社会や地域経済の活性化を図り、個性的で他にはない、誇りの持てるふるさと「**オンリーワンのまち**」を創造します。

(2) 新しい生活文化を発信するまち

スピードと効率のもたらす価値を尊重しながら、「スロー」というもう一つの価値観を市民の暮らしやさまざまな活動に取り入れることにより、大都市では手にすることのできない、ゆとりある環境や風土のなかで、真に心地よいと感じる日々の過ごし方や、手間ひまをかけることで得られる満足感や充実感など、名張ならではの潤いのある「**新しい生活文化**」を発信します。

第2節 リーディングプラン

将来都市像を効果的に実現していくため、まちづくりの3つの基本方向を踏まえながら、戦略の視点に基づいて次の7つのリーディングプランを定め、重点的な取組を進めます。



※名張の地域資源と個性

- 水と緑の豊かな自然環境
- 豊富な歴史・文化資源
- 美しい田園環境
- 多様な背景を持つ市民
- 清潔で余裕があり、整然とした住環境
- これまでに蓄積してきた社会資本等



名張の最大の地域資源である市民(豊富な人材)の力を生かし、NPOなどの市民活動や地域づくり取組を大きく展開させていくことで、支えあいによる心豊かな暮らしと地域社会を創造します。

(1) 市民活動推進プラン

NPOやボランティアなどの市民活動が福祉をはじめ教育・文化や環境、産業などさまざまな分野でその活動を繰り広げられるよう、情報提供や支援の仕組みづくりを行うとともに、自立してその活動が行えるよう行政事務の委託などを進めます。

特に福祉分野については、地域に根ざした新しいサービス事業のあり方について、皇學館大学社会福祉学部をはじめ高等教育機関などと共同で研究を進めるとともに、コミュニティビジネスの起業を促進するなど、さまざまな主体が多様なサービス提供を担う仕組みを構築し、地域福祉の充実に取り組みます。

また、市民活動のネットワーク化や、活動をサポートする市民活動支援センター機能の充実を図ります。さらに、支えあいの精神に基づく多様な活動が幅広く展開されるよう、市場原理に基づかない地域内循環型の新しい経済の仕組みとして、地域通貨や時間預託(タイムダラー)制度の導入などを進めます。

(2) 地域づくり推進プラン

地域が自立し、地域の課題は地域で解決する住民自治を基本として、各地区で地域づくりの活動が活発に展開されるよう、地域予算制度など資金面での支援制度や行政職員の派遣などの人的支援の充実、地域づくりに関する情報提供、人材育成などを進めます。

地域ぐるみで、次代を担う人づくりや子育て環境の整備、防犯・防災などの地域課題に協力して取り組むとともに、健康づくりや地域福祉活動を通して、互いに支えあい助けあう意識を醸成するなど、地域で心豊かに支えあう共助の仕組みづくりに取り組みます。

地域の特性を生かして、個性ある地域づくりが各地区で展開されるよう、地域ビジョン(構想)の策定を進めるとともに、地域と行政が協働してその実現を目指すために、策定された地域ビジョンを可能な限り行政計画に反映する仕組みを構築します。

さらに、創造的な地域づくりが展開されるよう、地域内の公共施設の有効活用を図るとともに、施設の管理や行政事務などについて、可能なものから地域への委託(移譲)を進めます。また、各地域が地域づくりの分野で互いに競い合い、補完し合うことで相互に発展ができるよう、交流やネットワーク化を促進します。

自然

豊かな自然環境や、美しい農山村の空間特性を生かし、庭園のような美しいまちと身近に「農」とふれあうことのできる潤いのある暮らしを創造します。

(3) 水と緑のガーデンシティプラン

名張市のシンボルともいえる名張川と多くの支流を、市民生活に潤いと安らぎを与える貴重な資源として、親水遊歩道の整備などによって水辺環境の保全と活用を図るとともに、水質改善を進め、蛍舞う清流の再生に取り組みます。また、赤目四十八滝や青蓮寺湖、ひなち湖の周辺を水と緑の交流ゾーンと位置付け、市内外の人々の交流や憩いの場として整備します。

水源涵養など多面的な役割を果たす森林が、将来にわたりその機能を維持し続けられるよう、適正管理や広葉樹林への転換を促進します。また、市民の森林ボランティア活動など森林・山村との交流による新しい森林管理の仕組みづくりに取り組みます。併せて、地元産材の利用促進や間伐材の有効利用など森林資源の活用を進めます。

また、園芸福祉の普及を促進し、空き地や公園などの地域ぐるみによる緑化運動、花いっぱい運動など全市的な活動を展開していくことにより、「水と緑のガーデンシティ」の実現を目指します。

(4) 農のある暮らし、スロータウンプラン

「農」が果たす癒しなどの多面的機能や、その重要性が見直されているなか、都市と農山村という2つの側面を持つ名張市の特性を生かし、両者を多様に結びつけることによって、魅力的な田園環境を守り育てる多彩な農の担い手の育成と、魅力ある新しい「なばり農業」を積極的に展開します。

市民農園の拡充を図るとともに、水田の里親制度、援農ボランティアなど多様な農業体験機会の充実など、市街地に住む市民と農家が豊かに交流する仕組みづくりを進めます。

また、農業者は新鮮で安全・安心な地元の農産物を市内の消費者に安定的に提供する「地消地産」に取り組むとともに、市民が積極的に食や農に関心を持ち地域農業を守り育てる「地産地消」システムを構築するため、農産物直売所の設置、学校給食への地元食材の利用拡大や食育の推進、市民への食材の安全性に関する情報提供などを進めます。さらに、生ごみの堆肥化などによる循環型農業を推進します。

こうした「農」を通じた多様な交流や活動の拠点としてアグリパーク(農業公園)の整備に取り組むなど、市民の誰もが地域の豊かさを実感できる「農のある暮らし、スロータウン」づくりを進めます。

文化

能楽をはじめ名張らしい魅力的な歴史・文化資源を生かしたふるさとづくりや、生涯にわたり学び活躍できる環境づくり、まちの顔となる都市空間の形成に取り組み、人々が生きがいを持ちながら生涯いきいきと暮らし続けることのできるまちの創造を目指します。

(5) 能楽のふるさとづくりプラン

世界無形遺産に登録された能楽の大成者観阿弥の創座の地として、能楽が市民の誇りになるよう、名張新能・能楽教室の開催や、創作狂言など名張独自の能文化の振興や学校教育における能楽の体験学習など、市民が身近に能楽にふれ、親しむことのできる「能楽のふるさとづくり」を進めます。また、能楽に関する市町村との交流・ネットワーク化を図り、共同してその歴史・文化を全国に発信する取組を進めます。

市内に点在する万葉ゆかりの歴史・文化資産や赤目四十八滝に代表される自然資源を活用し、ネットワーク化やモデルコースの設定などを、観光や歴史街道構想等の広域的な取組と連携しながら進めます。また、人々を温かくもてなすとともに、地域を誇り、広めるふるさとガイド(語り部)を育成します。

地域づくりの活動や農林業、観光面との連携を図り、美旗古墳群を中心とした田園・歴史・文化ミュージアム構想の具体化をはじめ、夏見廃寺、黒田庄、江戸川乱歩、忍者など名張らしい歴史・文化や、地域に根ざした伝統文化を系統的に継承・発展させ、文化が薫る魅力あるまちと誇りの持てるふるさとづくりに取り組みます。

(6) 能力を生かす、いきいき人生プラン

誰もがやりたいことを見つけ、自己の能力に磨きをかけるとともに、その能力が他者や社会の役に立ったとき、大きな満足感・充実感を得ることができます。スピードや経済原理だけにとらわれず、「よりよく生きる」、「充実した生涯を送る」というスローライフの考え方にに基づき、生きがいのある暮らしを創造します。

このため、すべての市民がいつでも、どこでも、楽しく学べるよう生涯学習の機会の拡大や学習情報を充実します。また、皇學館大学社会福祉学部など高等教育機関との連携によるリカレント教育を実施するなど、雇用や社会貢献などにつながる実務教育を充実します。

一人ひとりの能力や学習成果などが、社会のさまざまな分野で十分発揮されるよう、人材バンクやマイスター登録制度などを整え、多様な人材の活用を図るためのコーディネート機能を充実します。

高齢者が豊かな知識や経験を生かしながら、健康で生きがいを持って社会活動に参加し、自立して在宅生活を送り続けることができるよう、地域のなかで世代を超えて交流ができる環境づくりを進めます。

また、こうした活動の拠点となる施設のあり方について研究を進め、市民活動や地域づくりの活動、文化活動などと整合するよう、複合的な拠点機能の整備に取り組みます。

(7) まちの顔づくりプラン

名張地区既成市街地と鴻之台地区、中央西(仮称)地区の新しい市街地を合わせた中心市街地は、名張市のイメージを印象づける「まちの顔」です。中心市街地の利便性や魅力を高めるとともに、交流拠点として、活気とにぎわいを再生する取組を進めます。

名張駅周辺については、交通機能や都市サービス機能の充実を図るとともに、まちの顔にふさわしいシンボル性の高い都市空間を創造します。

既成市街地については、名張藤堂家邸や江戸川乱歩生誕地などの歴史・文化資源のネットワーク化や、景観資源として築瀬水路の活用、まち並みの修景などを進め、文化の薫りを生かした集客交流を目指します。また、商業の振興や福祉の充実など生活環境の向上を図り、高齢者をはじめ誰もが暮らしやすいまちづくりに、地域住民や商工業者などとの協働、連携によって取り組みます。

新しい市街地を形成する鴻之台地区と中央西(仮称)地区を広域的な行政、業務、情報交流の拠点として位置づけ、都市サービスなど多様な都市機能の集積や緑あふれる都市型居住環境の整備など、機能的で質の高い都市空間の形成を目指します。

